

別紙

吉武惇二（よしたけ じゅんじ）氏の略歴と講演の概要 4

【略歴】

- 1969年：慶応義塾大学 商学部 卒業
1969年：東京ガス入社、経理部、人事部、原料部などを経て、
1988年：ニューヨーク事務所長、
1992年：国際部グループマネジャー
2002年：総合企画部 調査室長を歴任。
2007年：定年退職
2007年：慶應義塾大学産業研究所専任研究員、アーガスメディア社顧問で現在に至る。
この間、
1974年：米国インディアナ大学 MBA 留学、
1980年：ハーバード大学国際問題研究所 客員研究員、
2003年：京都大学大学院エネルギー科学研究科 後期博士課程修了、
2007年：同大学院から博士号（エネルギー科学）を取得。



<原著論文>

1. 吉武惇二、吉川榮和、「アジア・太平洋地域の天然ガス市場の展望とわが国の天然ガス事業の将来的展望」開発技術 第8号 pp.53～65(2002年)
2. 吉武惇二、吉川榮和、「日本における天然ガスパイプラインの発達形態の特徴と LNG 輸送におけるローリー・トラックと鉄道コンテナの経済性比較」公益事業研究 第56巻、第3号、pp.29～40(2004年)
3. 吉武惇二、吉川榮和、「環境に優しい天然ガスの普及策」公益事業研究 第4巻 第1号 pp.33～43 (2004年)

<著書>

1. 吉武惇二、(共著)「エネルギー源の鍵＝天然ガス」(模索 日米新時代) 日本評論社 pp.122～132
2. 吉武惇二、(共著)「転機に立つエネルギー産業」アイペック社 pp.87～132
3. 吉武惇二、永里善彦、吉川榮和、京都からの提言—明日のエネルギーと環境—その続編—(シンビオ社会研究会 編著)「第6章 21世紀の主役は天然ガス」日本工業新聞社 pp.154～178
4. 吉武惇二(共著)「シェールガスの真実 ～革命か線香花火か～」石油通信社 pp.103～190

【講演概要】

テーマ：「米国産シェールガスは世界にどのような影響を与えたか」

<シェールガス革命とは>

1. シェールガス革命は米国から始まった
2. シェールガス革命の父、ジョージ・ミッシェル氏
3. シェールガス革命は3つの技術の組み合わせによって可能となった
4. 米国はロシアを抜いて世界第1位の天然ガス生産国になった

<シェールガスがもたらした LNG 輸出の変容>

5. 米国は LNG 輸出国から LNG 輸入国に
6. 米国の稼働中、建設中の LNG 輸出プロジェクトの概要
7. 米国へのパイプラインガス輸出が激減したカナダは、LNG 輸出国に変貌中
8. 米国からのパイプラインガス輸入の急増を受けて、メキシコも LNG 輸入国から LNG 輸出国に変貌中

<シェールガスがもたらした LNG 輸入の変容>

9. 原油からヘンリーハブに価格リンクした LNG 価格
10. 世界第1位の LNG 輸入国の日本は、LNG 輸入量のシェア減少が続く
11. 中国は韓国を抜いて世界第2位の LNG 輸入国に躍進
12. 米中貿易戦争の影響を受ける LNG 貿易
13. 世界的に LNG の普及拡大が進む 只今、LNG 輸入国 56 か国なり

<今後の課題>

14. 熱量バンド制導入に関する検討
15. LNG バンカリング設備の充実
16. 脱炭素化社会構築の1手段としてのメタネーションの推進